

SEIG

聖学院大学

後援会会報



All Seigakuin Fellowship

第66号

2025年4月1日

発行所：聖学院大学後援会 発行人：古屋博規 〒362-8585上尾市戸崎1-1 TEL048-781-0925 FAX048-726-2962 E-mail：parents@seigakuin-univ.ac.jp

「こもかみのみくになれば」

聖学院大学後援会 会長 古屋博規



みなさん ご卒業おめでとうござ
います。
そして、ご入学おめでとうござ
います。

戦後80年を迎えました。

学校法人 聖学院大学120年の
歴史の歩みを記念し、私の保管して
いた戦時中の讚美歌集を大学に寄贈
致しました。その讚美歌には君が代
が掲載され、これは讚美歌ではあり
ませんが掲載しますとの但し書きが
書かれていました。

今年には戦後80年。ノーベル賞は
1897年4月に授与機関ノーベル
財団が誕生して設立されました。

その後、第一回ノーベル平和賞が
1901年に誕生し、それから123
年目（2024年）に、日本被爆者
団体協議会がノーベル平和賞を受賞
しました。

そして、今から80年前、広島と長
崎に原爆が投下され、その悲惨な情
景が、中沢啓治の漫画「はだしのゲ
ン」に、また、峠三吉の原爆詩集など、
沢山の資料が生み出された歴史があ
ります。

2024年のノーベル平和賞は、日
本被爆者団体協議会が受賞されたこ
とはとても意味がありました。

日本被爆者団体協議会（被団協）
の方々の訴える世界平和の思いが、戦
争を知らない世代や高校生にも語り
継がれています。私のおります山梨
でも、被団協の方の講演に参加し、
高校生、大学生も語り合っています。

戦後80年は、もう戦争を知らない
世代、原爆の悲惨さを知らない世代
になっている昨今です。

「児童文学講座」の講師としてお
話くださった、生命誌研究者の中村
桂子さんは、「人間は生き物である」
という誰もが知っている事実を「社会
が忘れてしまっている」と危惧して語
りかけています。中村さんが長く取
り組む生命誌（以下「」は中村
桂子さんの言葉です。）

「ゲノムを通して生命の歴史物語
を読み取ることから来ています。アリ
もライオンもタンポポもバラも、それ
ぞれ役目を果たして共生しています。
例えば、地球上の二酸化炭素を吸収
した生態系を支える熱帯雨林は、たっ
た1mmのハチが野生のイチジクの花
粉を運ぶことで成り立っています。粗
先は一つ。生物に高等も下等もないの
です。ましてや人間の中に上下関係

や格差はなく、大人も子どもも、男
も女も、政治家も市民も、生き物と
してフラットです。」

人間も他の生物と同様に自然の一
部であるという生き物感覚を持つ大
切さを、中村桂子さんは説きます。

「時間に追われ、競争を強いられ
る社会で、私たちが忘れていく感覚で
す。立ち止まって足元のアリを見つめ
家族、日本人、人類という枠から『生
き物の中の私』を意識したら大切な
ものが見えてくるかもしれません。自
国の利益ばかりを追い求め、生物の
多様性に目を背ける世界のリーダー
にこそ知ってほしい感覚である」
と、中村桂子さんは問いかけてい
ます。

本文のテーマである「こもかみの
みくになれば」の讚美歌90番は、20
世紀初頭に亡くなられた、アメリカの
牧師 Mattie Davenport Babcock が
ナイアガラの滝近くの自然に囲まれ
た Lockport の町の牧師をしていた頃、
散策に出かける時にいつもの口癖の
「This is my Father's world」は、
神の創られた世界を主題に作詞され、
イギリスの祝福された大地という歌
集に編纂されたと伝えられています。
本学の礼拝を守る私たちも、心が
ひとつとなる秘訣の讚美歌（90番）「こ
もかみのみくになれば」を歌い、
神の創られた世界の平和を求めて参
りましょう。



学長挨拶

「人は学問的研鑽とそこで出会った人、注がれる愛によって成長する」

聖学院大学学長 小池茂子



新入生の皆さま、ご入学おめでとうございます。新入生のご父母をはじめとするご関係の皆さまにも心よりお祝いを申し上げます。

1903(明治36)年の聖学院神学校創設にルーツを持つ学校法人聖学院は、一昨年創立120周年を迎え、聖学院大学も昨年創立36周年を迎えました。聖学院120年余の伝統を継承し、キリスト教主義の教育を掲げる聖学院大学はグローバル化や少子高齢化など急激に変化する今日の社会の中で「主体性をもって他者に仕えることができる専門人」を育て世に送り出すことを目指しています。

一方で世界に目を向ければ、やまない戦乱、自国の利益や個人の利益の追求のみを主張して他者を排除することを公言する為政者、世界や国を導くエリートといわれている人たちの言動に懸念を感じずにはいられない現実があ

ります。私たちの住む世界は一体どこに向かっているのでしょうか？

『サビエンス全史』という世界的ベストセラーを書き上げた、ユヴァル・ノア・ハラール氏は、その最新刊の中で「私たち人類は人工知能などの新しいテクノロジーをつくり出し、DNA分析から彼方の銀河まで、あらゆるものについて膨大な情報を積み上げてきたにもかかわらず、その情報の一切をもつてしても、「私たちは何者か?」「何を希求すべきか?」「良い人生とはいかなるものか?」「その人生をどう生きるべきか?」といった、人生にまつわる肝心な問いの答えは得られていないようだ。」と述べています。

先の見えない時代といわれる中で、私たち聖学院大学は、社会の中に希望をつくり出す専門人を育て世に送り出したいと考えています。では、これからの21世紀を生きる私たちに求められるものとはどのような能力なのでしょう。それは、知識はいうまでもなく、複雑化する問題を解決するために主体的に考え、判断を行い、行動する力だといわれています。

また、多様な背景をもつ人々と共に生きていくために、自分とは異なる背景を持つ人や他者と協働できる力、またそのためのコミュニケーションを図る力、そして、どのような問題や課題に対しても前向きに(肯定的に)取り組むことができる人間性(人格)を有していることが非常に重要であるといわれています。また、グローバル化が進展し、さまざまな文化的背景を持つ者と交わり共に生きていくことが求められる時代の中で、私たちには「世界に通用する倫理観や信頼される人間性(人格)を有しているか否か」が問われているともいわれているのです。

これらの変化を踏まえ、聖学院大学では21世紀に求められる能力の育成に向け、今年度から全学共通教育科目群(通称)「聖学院エッセンシャルズ」をリニューアルすることとなりました。「聖学院エッセンシャルズ」は4つの学びの領域から構成されています。第一の領域は、聖学院大学の中で自分がどのように過ごせばよいのかを考える「聖学院大学論」、キリスト教主義大学ならではのキリスト教についての学びと世界の今を理解するための宗教等に関する学びからなっています。また、第二の領域は、世界や他者と自律的に繋がるための「コミュニケーション・スキル」の学び、第三は、世界と社会・地域の課題解決に取り組む主体的な市民に必要な知識と実践力の獲得に向けた学びであり、第四は人間理解、社会科学、自然科学からなる基礎的な教養についての学びです。

これら一年生から始まる「聖学院エッセンシャルズ」は、各学科の専門科目と連動して、確かな思考力と表現力を養成するための総合的な教育として構成されています。オープンキャンパスからはじまる大学への誘い、入試を経て入学前準備学習へ、そして入学後に始まる基礎教育や初年次教育を経て専門教育へと綿密に準備された教育は展開していきます。また、これらと並行して一人ひとりの将来を共に考える4年間のキャリア支援教育、クラブ活動やボランティア活動、インターシップ教育や国内外の研修や留学を通して、一人ひとりの学生の知的能力、行動力、問題解決力、人と協働する力、人間性が磨かれていきます。

「一人を愛し一人を育む」というメッセージを掲げて教育を行っている本学は、ほとんどの授業が50人以下で開講され、ゼミの学生数は10名以下で構成されています。

私は「人は学問的研鑽と共に、周りから注がれる愛によって成長する」と信じています。新入生の中には、大学生活になじめるか不安を抱えておいでの方もおられることでしょう。でも、心配しなくて大丈夫です。私たちは、誰かによって覚えられ、支えられ、時に厳しく指導されることを通じて、一人ひとりの可能性は格段に伸びていくのです。

ご入学を果たされた皆さまが、この学び舎で真の学問探求と温かな交わりにつながって、一人ひとりの夢を実現してくださることを心から願ってお祝いの言葉といたします。

新入生・新入生ご父母の皆様へ

ご入学おめでとうございます

学部長からのメッセージ



政治経済学部長

八木 規子

聖学院大学にご入学された新入生、また新しく後援会にご加入くださった皆さま、誠におめでとうございませす。心よりお祝いを申し上げます。

政治経済学部では、2025年度から二つの新しい授業プログラムを開始します。いずれも現地を訪ね、現場・現物から学ぶフィールドスタディという形式を取ります。ひとつ目のプログラムは、韓国ソウルをフィールドとして選びました。古いものを生かし地域を活性化する手法、それらを新たな観光資源として「インバウンド」へつなげていく、韓国ソウルの取り組みと斬新なアイデアについて学びます。国内フィールドスタディでは、沖縄を訪れます。さまざまな文化を受け入れ、独自の発展を遂げてきた彼の地で、米軍基地との共存、観光立県としての発展を掲げる取り組みなどの実態を学びま

す。現地の大学生との意見交換の場や、専門家の話を聞く機会も設け、フィールドを多角的に捉える力を育みます。

なぜ、このようなフィールドスタディを立ち上げるのか？それは、昨年度から政治経済学部政治経済学科は『地域社会の中核人材を育てる』を新しいスローガンとしているからです。地域の中核人材とは、自分が今立っている場所から手の届く、つながら相手の顔が見える地域の学びから出発して、さらにその先にある、姿の见えない誰かに対する想像力を働かせ、社会のために働きかける人を指します。こうした人を育てるためには、まず、人間が生活する場から出発することが大切です。現場を訪れ、社会を知ることにより、学生は、今まで見ていた景色が変わって見えるようになります。「社会を知れば、世の中はもつとおもしろくなる」こうした気付きに学生が到達する機会として、フィールドスタディを提供します。ほかに、埼玉県内の中小企業経営者の方々に講師にお招きして、地元に着した企業経営の現場の声から学ぶ「中小企業論」など、地域とのつながりを強める授業プログラムを用意しています。

こうしたプログラムを通して、新たな「地域」を創る人材を政治経済学部は育てていきたい。これからの政治経済学部にご期待ください。



人文学部長

濱田 寛

保護者の皆様、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

人文学部長、日本文化学科所属の濱田寛と申します。日頃のご支援に感謝申し上げます。

人文学部の3学科は、本年度より募集定員を縮小し、新たな「少人数教育」の探求を始めます。かつての「少人数教育」は、一方の「マスプロ（マスプロダクション）教育」という大教室での一斉教育の安置・テーゼとして喧伝されてきました。21世紀も四半世紀を経過し、「少人数教育」のあり方が劇的に変わろうとしています。それは「少人数教育」の利点を再評価し、教育システムの中に確かに位置づけ、学生に還元されるものとなります。従来の一方通行の教育ではなく、教員と学生、学生と学生の相互に学び合う学習環境

を構築、各自の学修成果を可視化し、自己点検可能なシステムを提供するということとなります。

人文学部は欧米文化学科・日本文化学科・子ども教育学科の3学科から構成される、本学最大の学部ということとなります。学科それぞれの固有の課題に向き合いつつ、学修者ファーストの教育への不断の努力をお約束申し上げます。保護者の皆様にはどうぞ人文学部の新たな挑戦にご期待下さい。そして引き続き、ご支援のほど切にお願い申し上げます。





心理福祉学部長
田村 綾子

心理福祉学部は、かつて人間福祉学部

に設置されていた人間福祉学とこども心理学を2018年度に統合し、心理学と福祉学について体系的にバランスよく学ぶことのできるカリキュラムをもってスタートしました。高校を卒業した段階では進路の焦点を明確に定めることができなかつたとしても、人とかかわることが好き、誰かの役に立ちたい、高校の担任の先生などから勧められた、などの理由で本学部を選択された方たちにとっても、ゆつくりとご自分を見つめ、長所を伸ばしながら進路選択していただけるという学部の特徴があります。加えて、大学院心理福祉学研究科への内部推薦制度も設けております。

さて、新入生のみなさまは、本学に入学されるまでにさまざまな経験を積んでこられたことと存じます。それらを活かしつつ、大学生活での幅広い体験を通じて価値観の広がりを実感し、自信を強め、人のために力を尽くすことのできる心身を培い一層成長していただきたいと願っております。本学部では、社会福祉士・精神保健福祉士、及び公認心理師の国家試験受験資格課程を中心としつつ、資格取得の有無にかかわらずなく

「人と社会」のあり様を学び、共生社会の実現に向けて貢献できる専門人へと、経験豊富な専任教員一同が責任をもって教育いたします。また、授業に加えてサークル活動やボランティア体験等、充実した学生生活を送っていただけますようさまざまな機会を用意しております。

本学部での貴重な学びのもとに、多数の卒業生がすでに社会で活躍されています。それを支えるのは、キリスト教教育による隣人愛に基づく多様性尊重の教育理念であり、誰もが共生できる社会の実現に向けた全人的な教育です。学部生が直接かわることはありませんが、本学部付属の心理相談室では、地域に開かれた相談機関として住民をはじめ関係機関のみなさまに広くご利用いただいています。さらに、毎年開催している心理福祉学研究講演会は、私たち教員の専門的な知見を地域のみなさまと分かち合う機会として好評いただいております。

新入生お一人おひとりのご入学を心よりお祝い申しあげますとともに、みなさまがご自分らしさを発揮されその賜物がより良く活かされて充実した大学生となりますよう、後援会及び保護者のみなさまとともに、心理福祉学部の専任教員一同でその歩みを見守り伴走したいと願っております。



地域社会との交流の現状と方向性について

地域連携・教育センター長

若原 幸範

大学は本来的な使命として教育・研究を掲げていますが、近年では「第3の使命」として社会貢献が重視されるようになっていきます。この社会貢献活動は、教育や研究と切り離されたものではなく、一体のものとして展開することが重要です。聖学院大学地域連携・教育センターは、教育・研究を通じて社会に貢献し、同時に社会貢献活動を通じて教育・研究のさらなる向上を目指しています。地域の方々の協力を得ながら、学生の地域での学びを支援し、大学としての社会貢献を果たすために、自治体、企業、地域コミュニティなどの諸団体との連携を進めています。

2024年度現在、「自治体との連携」として、13の市町村（さいたま市、上尾市、春日部市、東秩父村、ときがわ町、嵐山町、小川町、鳩山町、吉見町、川島町、滑川町、桶川市、釜石市）と包括連携協定を締結しています。これにより、地域活動事業や公開講座の実施、自治体の委員の委嘱など、多岐にわたる連携を行っています。特に上尾市とは年間30以上の事業を協働し、地域の活性化や文化振興活動、市民公開講座などを実施しています。

また、「企業との連携」においては、2023年度に包括連携を締結した埼玉中小企業家同友会との協力を基に、特に就職関連プログラムを実施しています。「中小企業の社長の話を聞こう!!」や「地元成長企業就職プログラム」、政治経済学科の「中小企業論」を寄付講座として実施するほか、学内会社説明会も開催し、複数の学生が内定を獲得しています。

2024年度からは大宮アルディージャとの連携により、インターンシップ（PBL型）を活用した講義プログラムも

展開されています。

「地域との連携」では、地元宮原や大宮地区で文化活動や芸術振興を発信する演劇団体 CorraCorraCorra と協力し、聖学院大学地域連携活動助成事業の一つとしてクリスマスミュージカル「神の道化師」の制作と公演を行いました。学生と地域住民が共にキャストや運営として参加し、公開当日は200名を大きく超える来場者がありました。

さらに、2024度は聖学院大学初の試みとして、キリスト教大学の重要なシーズン行事である「クリスマスツリー点火祭」を地域と学生が共に楽しむ形で発展させ、「クリスマスマーケット」を学内で開催しました。500名以上の地域住民が参加し、クリスマスイルミネーションで彩られた夜のキャンパスを楽しむことができました。

このように、聖学院大学は地域社会との交流を通じて、教育・研究の向上と社会貢献を実現し、持続可能な地域社会の形成に寄与することを目指しています。

物価高に対する食事支援

大学事務局学務部学生支援課

マネージャー 西八條 平和

現在、聖学院大学キャンパスにおいて、4号館食堂とエルピス食堂の2つの学生食堂があります。2020年度からのコロナ禍が影響し営業日や売上の減少、原材料価格高騰等により2022年度以降両食堂とも価格の値上げを行っています。2025年3月現在日替わりランチの価格は4号館食堂550円、エルピス食堂570円で販売しております。

2022年度に学生たちは学内でどのような食事を摂っているのか、学生食堂をどのように利用しているのか

を調査すると同時に、普段なかなか届くことのない学生の生の声を聞く機会を設けるにあたり、「食事に関するアンケート」を取り行いました。399名の学生から回答がありましたので、ご紹介します。

登校した際の食事はどこで購入していますか(複数回答可)

4号館食堂内のコンビニ216人、4号館食堂214人、自宅から持参169人、エルピス食堂163人、通学途中で購入109人、キッチンカー78人、食事を摂らない27人、その他7人

昼食代の平均金額を教えてください。

300円未満55人、300円～399円71人、400円～499円141人、500円～599円88人、600円～699円23人、700円以上21人

記述式アンケート部分に関しては、なかなか届かない学生の声を聞くことができました。

キャッシュレスの導入希望、メニューに関しては洋食系のメニューを希望する意見が多くありました。金額や雰囲気、清潔感はおおむね好意的な意見が目立ちましたが、値上げに関する厳しい意見も多く寄せられました。

アンケート結果を踏まえて4号館食堂、エルピス食堂は、2023年12月11日～2024年4月30日の期間、学友会費から補助を行い1000円引きキャンペーンを実施しました。

4号館食堂5、231食、エルピス食堂3、425食、合計8、656食分の補助を行いました。両食堂とも、100円引き期間は直前の通常営業期間より、食数は増加し、2つの食堂の合計売上額も、100円引き期間は直前の通常営業期間より増加しました。さらに、2024年12月電子マネー部分取付食堂自動販売機を導入しました。2025年度は、物価高の影響によ

り厳しい生活を余儀なくされている学生を支援するかつ、学生の健康保持及び増進活動を目的として、2025年3月24日(金)～2026年3月31日約1年の期間、4号館食堂、エルピス食堂のメニューに対して学友会費から補助を行い、500円以内の価格で提供できることを目指します。2025年度の施策が、学生たちの生活向上や健康維持に寄与することを願っています。引き続き、学生の声に耳を傾け、学生支援の努力を続けていきます。

学内アルバイトや大学が関わるボランティア活動の情報

大学事務局経営企画部大学総務課
マネージャー ペニントン 太郎

大学生活の中で、学業と並行して「アルバイト」や「ボランティア活動」に取り組むことは、学生時代の貴重な経験となります。特に「学内アルバイト」は、学業との両立がしやすく、授業の空き時間を活用しながら働くことができるため、学生生活をより豊かなものにする選択肢の一つとなります。

また、「ボランティア活動」は社会貢献の機会を得られるだけでなく、実践的なスキルを身につける場としても重要です。社会人基礎力の向上に大きく影響す

るとされ、積極的に参加することで将来のキャリア形成にも役立つでしょう。今号では、聖学院大学が提供する学内アルバイトやボランティア活動についてご紹介します。

「聖学院大学の学内アルバイトについて」

学内アルバイトとは、大学構内で働くアルバイトのことで、主に大学事務局で募集しています。学生は、学内掲示板などで情報を確認し、自分のスタイルに合ったアルバイトを選択できます。学内アルバイトの種類は様々ですが、学務部業務の補助(授業サポート、教員への機材貸出しなど)、障害学生支援ポーター(ノートテイク、テキストデータ化など)、入学前準備学習等の補助スタッフ(PC学生スタッフ)、総合図書館業務の補助(カウンター業務、PC貸出し業務など)、オンラインキャンパスの実施運営補助、就職サポート(絶対就職するための研究会)の支援、公開講座の運営補助などがあります。

学内で働くことで、大学の運営を支えると同時に、責任感や協調性などのスキルを養うことができます。興味のある方は、大学の掲示板や事務局をチェックし、自分に合ったアルバイトを見つけてみてください。大学が関わるボランティア活動について

ボランティア活動は、社会貢献を目的とした自発的な活動ですが、大学のコーディネートによって学生が安心して参加できる貴重な学習機会になっています。

1. 地域支援活動

宮原駅での清掃活動や、子ども向けの学習支援、福祉施設でのサポート活動など、他にも様々なボランティア活動が数多くあります。地域住民と関わる機会が多く、地域社会の一員としての意識を高めることができます。

2. 災害復興支援ボランティア

令和6年能登半島地震の被災地では、現在も復興に多くの時間と労力が必要とされています。学生達は、長期休暇を利用して、年に複数回現地でのボランティア活動を実施しています。現地での支援活動に加え、募金活動など、さまざまな形で支援も可能です。実際に被災地の状況を知り、支援の大切さを実感できる貴重な経験となるでしょう。

また、聖学院大学では、東日本大震災(3.11)以降、継続的に東北でのボランティアスタディツアーを開催しており、これが大学のボランティア活動の大きな特徴にもなっています。

3. イベントボランティア

さいたま北商工協同組合が主催する「さいたま[CO]祭り」や、地元の防災フェスタなどにおいて、運営補助として関わる機会もあります。また、防災フェスタやさまざまなイベントでは、防災啓発活動の一環としてヒーローショーを実施する「防災戦隊マホルンジャー」という聖学院大学学生のボランティア団体も活躍しています。

学内アルバイトや大学が関わるボランティア活動は、学生にとって貴重な経験となります。学内アルバイトは学業と両立しやすく、スキルアップにもつながるため、大学生活の一環として有意義に活用できるでしょう。また、ボランティア活動では座学だけでは得られない新たな学びや人とのつながりを得ることができます。その経験は大学の専門教育との相乗効果もあり、学生のキャリア形成にもつながります。興味のある活動を見つけ、積極的に参加してみたいかがでしょうか。ボランティア活動に興味のある学生は「聖学院大学ボランティア活動支援センター」にぜひいらしてください。

パイプオルガン運営報告と今後の活用

大学事務局経営企画部キリスト教センター事務局 マネージャー 松田 慶光

2024年度は、完成したパイプオルガンが本格的に始動した1年となりました。パイプオルガンの完成は後援会の皆様をはじめ、多くの関係者の祈りとご寄付に支えられて実現したプロジェクトです。完成後もその祈りは受け継がれ、具体的な教育の果実として分かち合われています。何よりも毎週火曜日から金曜日まで行われている全学礼拝は、これまでのピアノ奏楽に加えてパイプオルガンが用いられ、讚美が高く引き上げられていることを感謝と共にご報告します。

完成後、初めてとなる音楽会プログラムは春のキリスト教週間にて行われたキリスト教音楽会でした。地域に開かれたチャペル運営を目指し、学生・教職員だけでなく地域の方々にもチラシを配布したところ200名を超える参加者が与えられました。音楽会ではオルガン製作者であるガルニエ・マテュー氏、浅尾直子氏を招きました。オルガニストによる荘厳な音色が響き渡ると共に、ポジティブオルガンを実際に使いながら、その内部の仕組みやオルガンのコンセプトを解説する「組立てショー」も行われ、オルガンへの理解を深める時となりました。

秋のキリスト教週間では「創立記念講演会・音楽会」および「寄付者

に向けたオルガンコンサート」を企画・実施しました。創立記念講演会・音楽会では日本基督教団牧師、聖学院大学講師の渡辺善忠氏をお招きし、「彩り豊かなパイプオルガンの響き」と題してバロック時代の名曲を中心に演奏と講演をいただきました。また、寄付者への感謝を込めて企画されたオルガンコンサートを学園祭（ヴェリタス祭）期間である11月1日（金）・11月2日（土）に開催。両日合わせて500名を超える来場者となり、演奏の迫力に加え親しみのある選曲が高く評価されました。

2025年度に向けて、パイプオルガンの活用をさらに広げる計画が進行中です。具体的には、以下のような取り組みを予定しています。全学礼拝の充実・礼拝における讚美充実のため、パイプオルガンを積極的に活用。

キリスト教音楽会の開催・学生、後援会の皆様、地域の方々に向けた演奏会を開催し、キリスト教への理解促進や音楽文化の発展に寄与。

学生への機会提供・特にパイプオルガンに興味のある学生に対し、オルガンへの理解促進や実際に触れる機会を提供できるよう検討。

今後とも、パイプオルガン運営へのご理解ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

後援会と大学の交流会に参加して

122J保護者 齋藤 仁一

2024年9月7日（土）聖学院大学チャペルにて聖学院大学「後援会と大学の交流会」が開催されました。

小池学長からの心温まるご挨拶を頂いた後、学長補佐・学務部長の森様から「聖学院大学の重点施策について―学修成果の可視化を中心に―」との題目にて聖学院大学としての教育の現状等を説明していただきました。その中で、本学は学修成果の可視化が重要視されていることが分かりました。

学生自らが学習成果を長期にわたって収集し、自身の成長過程を可視化することだそうです。そして、それを活用して学生の能力を対外的にも可視化し就職活動等に活かすことだそうです。

私が大学生の時と比較すると学生の価値が多面化し総合的に判断されている事に感じすると同時に1年生からの積み重ねが大事な事だとしみじみ感じました。

また、事前受付質問への説明と回答の中で、保護者の関りで学生にとつてうれしかった事として「個性と尊重し自分の活動を肯定してくれた事」、「普段と同じ態度で接してくれた事」とのことでした。

わが身を振りかえってみると子供の将来の安定や円滑な就職活動を基に子供に接していたと反省しています。子供の就職活動にはどうしても口をはさみたくりますが我慢と覚悟をもって接しなければならぬと思った次第です。

いろいろと考えさせられる機会を与えていただきありがとうございました。



『ヴェリタス祭に参加して』

122S保護者 原 由香里

2024年11月2日(土)に行われたヴェリタス祭に参加させていただきました。

昨年度より聖学院大学後援会親会のお仲間に入れていただき、昨年度は初めて、そしてそれに続き今年度もバザーのお手伝いをさせていただきました。小雨の降るあいにくの天気でもバザーのお手伝いをさせていただきましたが、二号館入り口のロビーにて開催されました。

お菓子やインスタントラーメンなどの食品、洗剤や食器類、バッグやビュティー関係といった様々な献品に加え、川越産の新米も販売させていただきました。訪れたお子さん、年齢を重ねた方々に楽しみながら購入していただきました。会場が奥まった所でしたので、来客の皆さんに少しでも多く知っていただきたいと、数名で入場ゲートへ出向き、集客のため学生たちの集団に混じり、負けず劣らずの呼びかけをしながら賑やかに会話を盛り上げ、またそれを楽しみ、バザー成功に臨んでいました。



今回は初企画「ハンドマッサージコーナー」においては、アロマのいい香りに癒されながら心地よい時間を過ごしてもらえたのではないのでしょうか。献品にご協力くださった皆様、ご来場くださった皆様、ありがとうございました。

『聖書を学ぶ会に参加して』

121C保護者 長谷川 王子

2024年度の聖書を学ぶ会に参加させていただきました。謹んでお礼を申し上げます。

古屋博規会長をはじめ、関係者の皆様のご尽力によりまして多数の方が出席され、限られた時間とはいえ普段なかなかお会いできない皆様と親睦を深められたことに改めて感謝申し上げます。

聖書に対する理解がまだまだ未熟な私にとりまして「聖書を学ぶ会」は、忙しい毎日の中で見落としがち小さな幸せを見つめるきっかけを与えていただく時間となりました。

日々の暮らしで、私たちはさまざまなシーンで活躍される人々との交流が



思いがけず生まれることがあり、それは僅かなきっかけから繋がり、そしていつの間にか支えていただいていることに気づかされることがあります。この会で学ぶ聖書の中に、人と人との繋がり、支え合いのメッセージを感じることが出来ます。

聖書を学ぶことを通じて日々の中に希望を見いだすヒントを得て、疲労に襲われる切ないときも心の豊かさを見いだす支柱となっていると感じます。

聖学院大学を通じて聖書を学んだことは、年齢を言い訳にすることなく自分自身の新たな発見に繋がっていくと思います。

『卒業に寄せて』

121P保護者 田中 一代

皆さま、ご卒業おめでとうございます。

息子を導き、支えて下さいました聖学院大学の関係者の皆さまには、心から感謝申し上げます。

息子は、一人息子。兄弟なく年齢相応の人間関係の経験値が少なく、心通じる友達・先生に恵まれない不遇な小中時代がありました。

当時、奮起して臨んだ中学お受験。私立の中高一貫校。個性尊重・自由な校風・伝統的な

学び舎を謳っていた学校でしたが、期待に反した学校生活となりました。

高校は、別の選択肢。寮生活が出る学校を選んで、そこから息子は次第に色メガネない人間関係を築け

るようになっていきました。

今振り返ると、不遇だった小中時代は「人生の学び」だったと感じます。

最後の最後まで諦めなかった大学受験。聖学院大学の合格を勝ち取り、それを機に、人生がバラ色展開に入りました。これまでにない良き師との関り、スムーズな交友関係。今まで感じていた悔しさ、不満、不信感がウソのように変わりました。聖学院大学に入学して「お母さん、俺、頑張ってきたホント良かった。幸せだよ」と呟く息子。

聖学院大学に進んだお陰で、体験できた身も心も満ち足りた学生生活。こうして晴れて就職・卒業・新たな人生のページを迎えるに至りました。

たまたま聖学院大学の保護者の会にご縁を頂いた夫は、本大学のキリスト教の愛を軸に教鞭を振るわれる教師陣、大学関係者の皆さまの心篤い生徒指導を目の当たりに、他の大学では見られない生徒一人一人に寄り添った就職相談。これは聖学院大学のセールスポイントだと夫は語っております。

そして今、心から感謝申し上げます。社会情勢の不安・混乱の中においても、こうして愛あるものが実を結ぶのも、今の現実。巷で不安煽られること以上に「愛で創る現実」に着目して「今」を乗り越える大切さを感じます。息子の卒業と共に、私たちの新しい時代が始まりました。ありがとうございます。

2024年度 卒業生の進路状況及び 就職、進路支援について

大学事務局学務部キャリア支援課
マネージャー 磯田 和久

2024年度のキャリア支援は、「一人ひとりの自己理解を促進させ、希望進路を見出し導くこと。そのために一人を愛し、一人を育む」という聖学院大学の理念を職員ひとり一人が実現する「ことを使命として学生の現在地を確認し一人ひとりの状況に応じた支援に取り組みました。」

2024年度(2025年2月25日時点)の就職状況は、卒業生に対する就職率が前年比プラス6.0ポイントになりました。新型コロナウイルスが5類に移行されてから3年続けて改善しています。また、コロナ禍前となる2019年度同時期より1.5ポイント上昇しコロナ禍前の就職状況に戻りつつあります。

近年の傾向として企業・団体がインターンシップ(就業体験)に積極的に取り組み就職活動が早期化傾向にあります。また、文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意により2023年度からインターンシップ等の学生のキャリア支援に関わる取り組みが4つに類型化されました。期間5日間以上などの条件を満たすとインターンシップでの評価を本選考で活用できるため夏から秋にかけて実施するインターンシップが採用の中に位置づけられています。

一方で就職活動やインターンシップに不安を抱いている学生に対応するために3年生以降様々な就職支援プログラムを提供し対応しています。

企業・団体との連携強化について2023年4月に埼玉中小企業家同友会と産学連携協定を締結し、地元企業との接点を増やすために学内での企業説明会参加、寄付講座を通じて地元企業の魅力を知る機会を創るなど様々な観点から取り組みを行っています。2025年3月卒業予定者対象の学内説明会は加盟企業4社に参加して頂き3社から学生の内定を得て地元優良企業への就職が実現しています。

また、本学卒業生の採用実績・インターンシップ実習先となっている企業・団体等の採用担当者との交

流を深める就職懇談会を11月に実施しました。企業団体等の採用担当者からは求める人材像や大学へ期待することを、教員からは教育方針や学生の特徴等について採用担当者に伝える学科別ミーティングを行い相互理解に取り組みました。また懇親会では古屋会長のご挨拶に続き求人やインターンシップ等昨今の就職活動に直結する情報交換を行いました。

2025年度は引き続き対面でのキャリア支援を通じて私たち職員も学生と更に向き合い、学生が何を不安に感じどのような解決をしたいのかを一緒に考えながら、就職活動に向けて引き続き支援して参ります。

2024年度 聖学院大学の主な取り組み・動き

大学事務局長
真野 和英

1. ジュベナリス祭(バスケットボール大会)開催
4月27日(土)、体育館2階にてジュベナリス祭が開催されました。今年はバスケットボール大会として実施され、学生40名が4チームに分かれて熱戦を繰り広げました。スポーツを通じた交流が深まり、大いに盛り上がりました。

2. 保証人用 UNIPA の導入
学生ポータルサイト「UNIVERSAL PASSPORT (UNIPA)」に保証人もログインできるようにになりました。これにより、大学からの重要なお知らせのほか、成績や学修状況、出席状況を保証人が確認できるようになりました。

3. 武蔵浦和日本語学院と連携協定を締結
聖学院大学は、武蔵浦和日本語学院と連携協定を締結しました。この協定により、双方が緊密な関係を構築し、留学生の受け入れや教育活動を一層促進することを目的としています。

4. 「日本留学 AWARDS 2024」入賞
聖学院大学は「日本留学 AWARDS 2024」において、私立大学文科系部門(東日本)で入賞しました。この賞は日本語学校の教職員が選ぶ「留学生に勧めたい進学先」として評価されるもので、本学は10度目の受賞となりました。

5. ヴェリタス祭の開催
11月に開催されたヴェリタス祭は、「三原七色」をテーマに実施されました。

「三原色」は委員会・団体・来場者の要素が交わることでカラフルな学園祭となることを意味し、「七色」は7日間の開催期間を象徴しています。1日目は372名、2日目は777名の計1,149名が来場し、活気あふれるイベントとなりました。

6. 初のクリスマスマーケット実施
11月20日(水)、点火祭と同日に聖学院大学初となるクリスマスマーケットが開催されました。後援会の聖書を学ぶ会をはじめ、キッズプログラム、聖学院教会のバイオルガンコンサート、キーキ・クッキーバイキング、学生によるハンドメイドマーケット、キャンドルナイトなど多彩な企画が実施され、学内外から500名以上が参加しました。キャンパスはクリスマス

の光と来場者の笑顔に包まれました。
7. ミュージカル「神の道化師」公演
演劇団体 OutaOutaと連携し、地域連携活動助成金を活用したオリジナルミュージカル「神の道化師」を制作・公演しました。学生や地域の方々を含む40名以上のスタッフが参加し、プロの演劇関係者とともに活動しました。クリスマス公演にふさわしい内容で、200名以上の観客を魅了しました。

8. 安富信也画伯の絵画受贈
著名なクリスマスチャン画家・安富信也画伯より、2024年度国展出品作品「詩篇150篇」が寄贈されました。縦約2メートル、横約35メートルの大作はチャペル隣のエルピス(ギリシャ語で希望)館に設置され、訪れる人々を楽しませています。

9. 大宮アルディージャとの産学連携授業を実施
地元プロサッカークラブ・大宮アルディージャと連携し、課題解決型の地域・産学連携授業を実施しました。キャリア教育科目「インターンシップ PBL型」において、大宮アルディージャが直面する課題に対する解決策を学生が提案・実践しました。本授業には4月から7月にかけて24名の学生が参加し、全15回にわたる講義を受講しました。

これらの取り組みを通じ、聖学院大学は教育・文化活動の充実を図り、地域社会との連携を強化しています。

2025年度 主な年間行事(案)

※主な大学行事も含む

- 2025年
- 4月1日(火) 入学式、後援会会報第66号発行
- 5月14日(水) 春のキリスト教週間・キリスト教文化講演会
- 5月17日(土) 後援会総会、役員会、保護者のための就職ガイダンス
- 9月24日(水) 春学期卒業式・秋学期入学式
- 10月11日(土) ヴェリタス祭(バザー値付け)
- 10月23日(水) 秋のキリスト教週間・創立記念講演会
- 11月1日(土) ヴェリタス祭・後援会バザー
- 11月1日(土) 親子で考える就職ガイダンス
- 11月4日(火) 就職懇談会
- 11月19日(水) 聖書を学ぶ会・懇親会・クリスマスツリー点火祭
- 12月17日(水) クリスマス礼拝
- 2026年
- 3月21日(土) 卒業式、役員会

編集後記

入学・進学おめでとうござい
ます。日ごろ後援会の皆様には
ご協力とサポートに感謝申し上
げます。この度、学生をサポートする情報
や後援会が行なっている情報をお届けしま
した。聖学院後援会は大学と保護者の連携
を大切にし、学生たちの未来に向けて共に
歩んでおります。ご興味のある方一緒に
活動いたしましょう。 H.N

※後援会役員につきましては、全学年、随時募集しております。